

越中一宮

<https://www.takase.or.jp>

令和八年、招福萬来。

午年は躍進と繁栄の年―。

古来、馬は人の暮らしを力強く守り、
支えてきました。

福の神 大国さまをお参りして、家内安全、
事業の繁栄をお祈りしましょう。

一月・二月の祭事

月次祭（毎月一日・十三日／
一月は十三日のみ）

歳旦祭（二月一日）

元始祭（二月三日）

昭和天皇祭（一月七日）

天神祭（二月二十五日）

節分祭（二月三日）

紀元節祭（二月十一日）

祈年祭（二月十七日）

天長節祭（二月二十三日）



「丙午の年頭にあたり」

宮司 藤井秀嗣

令和八年のお正月を迎え、皇室の弥栄、国家の隆昌、氏子崇敬者各位のご多幸をお祈り申し上げます。

昨年は昭和百年、大東亜戦争終結八十年という節目の年であり、一年を通して記念行事などが行われ、また、令和十五年に斎行される第六十三回神宮式年遷宮の諸祭儀も始まった年でした。今年は木曽の御杣山から伐り出された御神木を神宮境内に曳き入れる「御木曳行事」が予定されており、木遣の声も勇ましく、奉曳に参加する大勢の掛け声で、伊勢の街は賑やかになることでしょう。

今年の干支は「午」ですが、伊勢の神宮には皇室から献上された御神馬がいます。御神前にお参りする日があるそうで、運が良ければお目にかかれるかもしれないかもしれません。今年の午年を正式に十干十二支でいうと「丙午」となります。甲乙丙丁…と始まる十干と、子牛寅卯…と始まる

十二支の組み合わせ六十通りのうちの四十三番目になります。

「丙」は陽の火を表し、太陽のような明るさや情熱を意味しており、万物全てに平等に光や熱を与えるという意味があります。

「午」は十二支のうちの七番目で、方角でいえば南、時刻でいえば午前十一時から午後一時までの間を指し、「丙」と同じく、陽の火の意があります。午（馬）の運動能力の高さから、行動力やスピードなど、漲るパワーを意味しています。この強力な字が組み合わさる「丙午」の年は、情熱と行動力から成長著しい活気のある年になるといわれています。

また、陽の火を表すということから、火事が多く発生する年になるといわれ、昔から用心しなければならぬ年とされてきました。

前回の丙午となった年（昭和四十四年）の出来事を見てみると、海外旅行の自由化や日本テ

レビの長寿番組「笑点」の放送開始。また、祝日法改正で建国記念の日、敬老の日、体育の日などが制定されました。さらに、あの「ザ・ビートルズ」が来日し、日本武道館で公演しました。日本中の若者が狂喜乱舞しました。この年の出来事は、国民それぞれの胸に蓄積された熱いエネルギーの吐露によって起ったように感じます。ビートルズに至っては、これまでの日本の音楽シーンを変えただけではなく、戦後の日本社会に新しい文化的自信を与え、これまでの価値観を大きく転換させるきっかけとなりました。

丙午の年は、社会の大きな変化が期待できる年かもしれません（悪い変化は遠慮）。この年を良き年にするために、抱える仕事や使命に情熱をもって取り組み、目標を定め、その達成に向けて一層の努力をしなければなりません。高瀬の大神様（大國様）から広大無辺なる御加護をいただき、陽気と活気が溢れる実り多き年となりますようお祈りしております。

今年も宜しくお願い申し上げます。

謹賀新年

令和八（ひのえま）年
皇紀二六八六年

宮司 藤井秀嗣

禰宜 岩田智典

権禰宜 山森信人

松本正靖

巫女 源 結羽

大島未鈴

赤松美佐

参集殿 中井直美

ワフンナグ 辻 百華

囑託 上口友子



新嘗祭齋行

— あわせて篤農家表彰並びに感謝状授与式 —

古くより農作業や人々の暮らしの指針とされてきた二十四節気のひとつ「小雪」の翌日十一月二十三日、その年の五穀豊穡を大神様に感謝申し上げ、氏子崇敬者の益々の繁栄を祈念する、令和七年最終の大祭「新嘗祭」を齋行しました。

産業の発展と穏やかな暮らしに感謝

年間最終の大祭となるこの「新嘗祭」は、古くは農作物の豊かな稔りに感謝する祭事でしたが、時代の移り変わりと共に、日本のすべての産業の発展と、国民の穏やかな暮らしを大神様に感謝するものへと、少しずつ姿を変えながら、現代まで大切に受け継がれてきました。

大前には、地域の皆様からご奉納いただいた米や旬の野菜など、多くの農作物がうず高く供えられ、



浦安の舞

巫女による「浦安の舞」が厳かに奉奏されました。

令和七年の参向使は、「なんと農業協同組合」より上田憲仁代表理事組合長、「献穀の儀」は本年度献穀田奉耕者ファーム八

乙女代表 澤田秀継氏、井波地区農業者会会長 波能治男氏、同副会長 岩崎宏志氏にご奉仕いただきました。

祭典に引き続き、篤農家表彰式を行い、前出の澤田氏に感謝状、また、柴田博基氏（砺波市）、中山司氏（小矢部市）がそれぞれ農事功労者表彰を受けられました。



献穀の儀

九月十五日、今回で六十三回目を数える「奉納剣道大会」を開催しました。毎年、高瀬神社の境内にて賑やかに行われる本大会ですが、本年は天候不良の為、井波社会体育館での開催となりました。

会場にはいつもと変わらぬ、熱の入った声援と竹刀の音が響き渡りました。

【団体の部】

▽小学生男・女

①井波剣道スポーツ少年団

▽中学生男

①庄西中学校

②井波中学校

▽中学生女子

①庄川中学校

②般若剣道クラブ

【個人の部】

▽小学生男子

①高田 武（井波スポ少）

②安田 清秀（福野剣友会）

③岡野 健吾（砺波武道館）

▽小学生女子

①高田 隆都（井波スポ少）

②安田 隆都（井波スポ少）

③岡野 隆都（井波スポ少）



第63回 剣道大会 開催

▽小学生女子

①藤井 花南（井波スポ少）

②高島 和花（井波スポ少）

③柿原 莉子（井波スポ少）

▽中学生男子

①浅田 快生（井波）

②小西 夢翔（井波）

③ベック・ジョシア（庄西）

▽中学生女子

①安田 雄彦（福野）

②宮島 愛心（福野）

③藤田 弥沙（庄川）

▽高校生男子

①石森 いろは（庄川）

②藤田 弥沙（庄川）

③西田 成樹（砺波）

▽高校生女子

①上田 颯磨（砺波）

②清田 成樹（砺波）

③嶋田 結華（南砺福野）

▽小学生男子

①中田 結華（南砺福野）

②池田 結華（南砺福野）

③足原 希伊（南砺福野）



明治節祭齋行

― 明治天皇のご聖業を偲んで ―

アジアの東日出^{ひだり}するところ
聖^{ひじり}の君のあらはれまして
古きあめつちとぎせる霧を
大御光^{おみひかり}にくまなくはらい
教えあまねく道明^{みちあき}らけく
治めたまへる御代^{みよ}たふと

「明治節唱歌」より

現在では「文化の日」として
国民に親しまれる十一月三日、
「明治節祭」を齋行しました。

昭和二年に制定された「明治
節」は、同二十三年までわが国の
近代国家建設の為に力を尽くさ
れ、豊かで平穩な今日の礎を築か



れた、明治
天皇のご功
績を讃える
祝日でした。
祭典では
明治天皇の
ご遺徳に思
いを馳せ、
皇室の益々
の弥栄と国
の隆昌を祈
念しました。

お子様の健やかな成長を祈って 七五三祝祭

穏やかな秋の陽射しに包まれた10月15
日、お子様の無事の成長を大神様に感謝
し、今後ますますの健康と幸せを祈念す
る「七五三祝祭」を齋行しました。

3歳の「髪置き」、5歳の「袴着^{はかまぎ}」7歳
の「帯解き」の儀式を起源とする、古来
わが国に受け継がれる七五三詣。色とり
どりの風船を手に境内を元気にかけ回る
子供たちの姿に、大神様も目を細められ
たことでしょう。



祝祭日には国旗を掲げましょう

神明宮例祭齋行

十一月十三日、当神社の本殿に、
主祭神^{おおくにぬしのおおかみ}大神と共に祀り申し
上げる、天照皇大神のご神徳を讃
え、末永い国の隆昌と平穩を祈念す
る「神明宮例祭」を齋行しました。

巫女の舞う式神楽の清らかな鈴の
音は、ご参列の皆様それぞれの感謝
の真心に重なり合うように、ひとと
き拝殿に響き渡りました。



《令和八年》

祭事暦

◎毎月一日・十三日 ◎毎月十三日	交通安全祈願祭	月次祭	全	除夜祭	師走大祓祭	新嘗祭	七五三祝祭	神明宮例祭	明治節祭	神嘗奉祝祭遙拝	村まつり	秋季皇霊祭遙拝	例祭	中禮祭	人形感謝祭	除熱祭	七夕祭	七越太祓祭	夏越太祓祭	稲荷社例祭	風宮例祭	祈年穀祭	昭和祭	春季祭	神武天皇祭遙拝	春季皇霊祭遙拝	鎮火祭	天長節祭	祈年祭	紀元祭	節分祭	天神祭	昭和天皇祭遙拝	元始祭	歳旦祭	一月一日	一月三日	一月七日	一月二十五日	二月三日	二月十一日	二月十七日	二月二十三日	三月八日	三月二十日	四月三日	四月十日	四月二十九日	六月十日	六月十九日	六月三十日	七月七日	七月二十二日	七月中齋行予定	八月十六日	九月十三日	九月二十三日	十月四日	十月十七日	十一月三日	十一月十三日	十一月十五日	十一月二十三日	十二月三十一日
---------------------	---------	-----	---	-----	-------	-----	-------	-------	------	---------	------	---------	----	-----	-------	-----	-----	-------	-------	-------	------	------	-----	-----	---------	---------	-----	------	-----	-----	-----	-----	---------	-----	-----	------	------	------	--------	------	-------	-------	--------	------	-------	------	------	--------	------	-------	-------	------	--------	---------	-------	-------	--------	------	-------	-------	--------	--------	---------	---------

◎毎月一日・十三日 月次祭
◎毎月十三日 交通安全祈願祭



祭告奉納繩連注 — 注連繩に願いをこめて —



拝殿に掛けられた直径10センチの一字注連繩

高瀬神社注連繩奉納講では毎年、新年を迎えるにあたり、その一年間、社殿を飾る新しい注連繩を奉納しています。

本年も大神様のおそば近くをを守りする拝殿内の注連繩を掛け替え、商売繁盛、家内安全、また、ご奉賛いただいた講員各位の「願い事」を祈念しました。

注連繩奉納講奉賛者芳名

株式会社縄合屋
 有限会社石森石材
 株式会社富山環境整備
 キョーリン製薬グループ工場株式会社井波工場
 タチフレックス
 チュリリップ交通株式会社
 となみ観光交通株式会社
 ナナンテア・フルール
 西部英子
 大和トランスポート株式会社
 アルカスコポレーション株式会社
 岩倉清司
 オーバル
 有限会社かきや アンヘルハート
 株式会社川金
 北日本放送株式会社高岡支社
 株式会社九谷屋
 株式会社越路ガーデン
 有限会社さつき堂
 株式会社三楽園
 株式会社ジオミックス
 有限会社庄川建鋼
 庄川自動車株式会社
 庄川泉源株式会社
 センダン電子株式会社
 菓子蔵処田村萬盛堂
 東洋通信工業株式会社
 富山総合ビルセンター株式会社
 中村 武
 南部スタジオ
 有限会社ニューズ
 野原工業株式会社
 日の出屋製菓産業株式会社
 平 啓吾
 株式会社みつ和
 宮窪電気商会
 名鉄観光サービス株式会社富山支店
 森田建設株式会社
 株式会社レックラヴィファクトリー金沢店

(順不同・敬称略)

連載 鎮守の杜 のすたるじい 第10回

高瀬神社と青年団の初詣

高瀬鳳鳴クラブ 松平 信隆

今から四十八年前の昭和五十二年、その当時は地元に戻ったら当然青年団に入団するものだという時代でした。いろいろな行事・事業がある中で、高瀬青年団には他の地域の青年団にはないある特徴がありました。それは「高瀬神社初詣での縁起物授与」という年末から年始にかけての一大事業。年の瀬が近づくと、幾分か神社の社務所に集まり、にこやかに微笑むお多福のお面がついた縁起物の熊手に、「高瀬神社」の焼き印を押すなどして新年に備えました。途中、仕事に飽きた始めた団員が、夜食やおやつに用意されたミカンに焼き印を押して「これ食べたらご利益で風邪ひかん」などとふざけ合いながら美味しくほおばり、仲間同士と気あいあいと夜が更けていったものでした。



大晦日当日は午後十時頃、神社に

青年団の授与所前

(昭和五十七年)

集合。男性は和服または背広にネクタイ、女性は髪を結って着物姿で社務所玄関前の仮設テントの授与所に詰め、元日の夕方まで交代で休憩をとりながら奉仕しました。ヘトヘトになって家に帰ると「新春かくし芸大会」など楽しみにしていたテレビ番組の最中にもウトウト、そのまま寝入ってしまう始末でした。数年後には授与品にダルマも追加されて授与奉仕も益々忙しくなり、当時ヒットしていた山口百恵さんの曲の替え歌などを皆で歌いながら、必死に眠気と戦ったことを今でも思い出します。



昭和五十五年

その甲斐もあり、神社からはご奉仕料として団への助成をいただき、この潤沢な運営資金を、他の地域の青年団から再三再四羨ましがられたものでした。

翌二日には朝から片付け。その後は正月気分を味わいに町に出たり、当時大流行していた喫茶店のテーブルのインベーダーゲームに興じる、ごく普通の若者に戻って穏やかな新春を過ごすのでした。

このコラムでは、氏子崇敬者の皆様よりお寄せいただいた、高瀬神社にまつわるとっておきの思い出ををご紹介します。





大国さまの処方せん ①9

『はたらく細胞』を点検しませんか？

南砺市民病院

副院長 熊野 義久

皆さんの記憶にもある

と思いますが、令和六年十二月に「はたらく細胞」が実写映画として上映されました。もともとは月刊誌に連載されていた漫画で、とある「人」の体内で年中無休で働いている数十兆個もの細胞を擬人化した物語で、新米の赤血球や白血球などを中心に群集劇の形で細胞たちの日常を描いています。

この作品の中には赤血球、白血球／好中球、血小板や、T細胞やB細胞、マクロファージなどの免疫細胞などが登場するが、細胞の描写は血液を専門とする私から見ても非常に正確なので、興味があれば皆さんも映画や漫画を読んでみるといいと思います。

いと思います。

さて、皆さんは自分の中の「はたらく細胞」を時々点検していますか？自分の中の「はたらく細胞」がしっかりと機能しないと、感染症になりやすくなったり、貧血で疲れやすくなったり、ぶつけた覚えがないのにあざがでたりする場合があります。そのような場合には、血液の病気が隠れている可能性があります。なかには白血病などの命に関わるような大病が隠れている場合もあります。そのため定期的な点検作業をして、自分の体の「はたらく細胞」が元気を確認する事が大切です。簡単な点検作業として健康診断での採血があります。

健診の採血で白血球

数、赤血球数、ヘモグロビン、血小板数を定期的に確認するだけでも血液疾患を見つけることができる程度です。

皆さんも定期的に健診で採血検査を行い、自分の「はたらく細胞」を点検して、もし異常があれば早めの医療機関受診をお願いいたします。

熊野 義久

南砺市民病院副院長

福井県鯖江市出身、金沢大学医学部卒。

南砺市民病院には平成十五年に一年間と平成二十九年十月から勤務。血液内科（特に造血器腫瘍）を専門として内科外来や訪問診療に従事されています。

医薬医療の神として知られる大国主大神（大国さま）のご神徳にちなんだこのコラムは、毎回、専門家の方にご寄稿いただき、読者の皆様の生活に役立つ医療知識などを発信いたします。

安産祈願 戌の日カレンダー

1月	12日・24日
2月	5日・17日
3月	1日・13日・25日
4月	6日・18日・30日
5月	12日・24日
6月	5日・17日・29日

令和8年
腹帯のお祓いも行いますので、どうぞご持参下さい。

ご奉納御礼

【初穂米・表参道提灯五灯】
楽農志Farm岩倉 殿

【初穂米】
小石 達人 殿
大塚 昌一 殿

【神饌米】

井波地域農業者会 殿
代表 ファーム八乙女
澤田 秀継 殿
岩倉 和弘 殿

【里芋】

河原 祥滋 殿

【屋内絵馬掛け台】

藤井 了奨・志帆 殿

ご奉納に心より御礼申し上げます。

令和8年 厄年・身祝一覧

〈厄年〉数え年

	前 厄	本 厄	後 厄
男	24歳 平成15年(未)	25歳 平成14年(午)	26歳 平成13年(巳)
	41歳 昭和61年(寅)	42歳 昭和60年(丑)	43歳 昭和59年(子)
	*60歳 昭和42年(未)	*61歳 昭和41年(午)	*62歳 昭和40年(巳)
女	18歳 平成21年(丑)	19歳 平成20年(子)	20歳 平成19年(亥)
	32歳 平成7年(亥)	33歳 平成6年(戌)	34歳 平成5年(酉)
	*36歳 平成3年(未)	*37歳 平成2年(午)	*38歳 昭和64年・平成元年(巳)

※数え年とは、満年齢に誕生日前には2歳、誕生日後には1歳を加えた年齢です。
*…この年を厄とする地域もあります。

〈身祝〉数え年

	年齢	生まれ年
還暦	61歳	昭和41年(午)
古希	70歳	昭和32年(酉)
喜寿	77歳	昭和25年(寅)
傘寿	80歳	昭和22年(亥)
米寿	88歳	昭和14年(卯)
卒寿	90歳	昭和12年(丑)
白寿	99歳	昭和3年(辰)

※男女ともに祝います。

社報バックナンバーのご案内

当社社のホームページにてバックナンバーをご覧いただけます。祭典の由緒や行事の沿革など、過去の記事もご参考になさってください。
<https://www.takase.or.jp>

この日、収穫された稲は、当社の新嘗祭、また「懸税」として伊勢の神宮の神嘗祭に供えられました。



拔穂祭齋行

― 大神様に豊作を感謝 ―

九月十五日、高瀬神社献穀田において「拔穂祭」を齋行しました。

当日は五名の早乙女（刈乙女）の皆さんにより「拔穂の儀」が行われ、見事に稔った稲穂を、ひと株ひと株丁寧に刈り取りました。



献穀田だより

神宮初穂曳に参加

十月十六日、伊勢の神宮で行われた「初穂曳」に参加しました。

稲穂を積んだ一番車、俵を積んだ二番車の各奉曳車は、約千六百人の参加者の手により、およそ一キロの距離を神宮のご神域まで運ばれました。

昭和四十七年に「お木曳行事」

「お白石持行事」の伝統継承を目的として始められたこの行事に今回

参加されたのは、本年度の献穀田奉耕をご担当いただいた澤田秀継氏をはじめ、農事組合法人ファーム八乙女の皆さん。

次回、第六十三回神宮式年遷宮は、令和十五年の秋に行なわれます。



ファーム八乙女の皆さん（外宮にて）



地元の皆さんの木遣に元気をもらいながらの奉曳

表紙絵

「令和八年干支絵馬」―。今年のテーマは「人間万事塞翁が馬」。人生七転び八起き、頑張ります！



編集後記

小矢部市に本拠を置く（株）ゴールドウインは昨年創立七十五周年を迎えられた。スポーツ分野はもとより宇宙空間において、飛行士の健康や船内

環境を維持する為の特種な衣料を開発するなど、その貢献は多岐にわたる。領域は違えど私達神道人も、手渡された伝統を守り次世代に引き継ぐ為の、新しい手だてに敏感でいたい。（智）

感謝うさぎからのお知らせ

わたしはご本殿前の感謝うさぎです。ずっとひびりだったわたしに仲間が出来ました。

神恩感謝うさぎ 鹿熊 秀夫 殿

ご奉納ありがとうございました。



新しい仲間のうさぎさん

節分祭



― 豆まき神事のご案内 ―

古く節分は、「季節の変わり目」を表す言葉であり、立春が一年の始まりとする考えに基づき、この節目を特に「節分」と呼ぶようになりました。そして、季節の変わり目には災厄が生じるとの古い信仰から、現在も各地で豆まきなどの「追儺神事」が行われています。

越中一宮高瀬神社の豆まき神事に、どうぞご参加下さい。

と き 令和8年2月3日（火）午後3時
ところ 高瀬神社 拝殿



人生儀礼



結婚式



年祝



安産祈願

— えん結び —



厄祓



初宮詣



合格祈願



七五三詣



初節句

感謝と祈り



ずっと祈り、祈られてきた。
無事に生まれますように。
健康に育ちますように。
人生を切り開けますように。
良いご縁がありますように。
大切に育ててくれた家族、
苦楽を共にしてきた友、
人生を彩るたくさんのご縁、
当たり前に過ごした日常は
かけがえのない日々でした。

私たちの結婚は、感謝することから始めたい。
今日の決意を忘れず、ふたりで歩んでいきます。
どうか神様、これから
私たちを見守っていてください。



あなたの人生に 神社がある

越中一宮高瀬神社

